

社長メッセージ

2024年12月
株式会社ちゅうぎんフィナンシャルグループ
取締役社長 加藤 貞則



地域経済・社会の抱える課題に対して、 共創パートナーとともに

「共創の場」(プラットフォーム)を生み出し 「幸せが循環する地域」を目指します。

お客さま、株主のみなさまにおかれましては、平素よりちゅうぎんフィナンシャルグループにご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、中期経営計画「未来共創プラン ステージⅢ」が進行中ですが、ステージⅠ、ステージⅡを通じて積み上げた成果を最大限発揮し、長期経営計画で掲げた地域やお客さま、従業員と豊かな未来を分かち合うための持続的なビジネスモデルの構築をグループ一丸となって目指してまいります。

日本銀行のマイナス金利政策解除の影響について

日本銀行は、2016年1月の導入以来8年ぶりにマイナス金利を解除するとともに、2007年2月以来およそ17年ぶりの利上げを実施しました。マイナス金利下では金融機関にとって厳しい環境が続きましたが、その一方で銀行法上の規制緩和が一部進み、地域社会やお客さまが抱える課題に対して対応できる分野

が広がっています。私どもは、お客さまの「ヒト・モノ・カネ」に関するニーズにワンストップでお応えするための新たなグループ会社を設立してまいりました。

また、日本銀行による政策金利の引上げにより、長い間経験してこなかった「金利のある世界」が到来しました。「金利のある世界」による影響は、お客さまにとって預金金利の上昇というプラスの面がある反面、融資金利の上昇というマイナスの面もあります。ちゅうぎんグループ(13社)は、お客さまの抱える多様なニーズや社会課題に寄り添い、最適なソリューションの提供を通じてお客さまのご期待に応えてまいります。

地域課題の解決に向けたDXの取組み

中期経営計画「未来共創プラン ステージⅢ」で描く2030年の目指す姿「幸せが循環する地域」の実現を確実なものにするため、2024年5月に「ちゅうぎんDX戦略」を策定しました。

「ちゅうぎんDX戦略」では、自らがDX企業となるための業務プロセスの改革や大胆な業務シフトに着手するとともに、チャネル拡充やデジタル活用によるお客さまの利便性向上に向けたサービスの展開、データ活用による業務の高度化でお客さまへの最適なサービスの提供に努めています。

加えて、ちゅうぎんグループのノウハウやオープンイノベーションの活用、新事業の展開や異業種連携によりDXの取組みの充実を図っています。

さらに内部開発体制やリスクリテラシー強化、デジタル人材育成と

いったDXを下支えする基盤整備をおこない、地域のお客さまのDXをサポートすることで豊かな未来の共創を目指しています。

2030年の目指す姿「幸せが循環する地域」

地域が抱える課題は、人口減少、脱炭素、街づくり、産業振興など多岐にわたっています。

これらの課題に対し、ちゅうぎんフィナンシャルグループでは金融を中心とした商品やサービスおよびグループ会社の知見を活かしたソリューションなどでお応えしていますが、時代が大きく変わる中で今後ますますニーズの多様化、高度化が予想されます。

この多様化、高度化するニーズに対し、ちゅうぎんグループは地元の行政、企業、教育機関のほか、先端技術やノウハウを有する他業種のトップ企業などの共創パートナーとともに共創する場(プラットフォーム)を構築しています。

共創パートナーとともに地域課題へ多面的、多層的に展開することで「幸せが循環する地域」が生まれ、「お客さまと豊かな未来を共創する」ことができると考えています。

“地域が日本を牽引する時代へと進化する”その一翼を私たちちゅうぎんフィナンシャルグループが担ってまいりたいと思います。

これからも挑戦を続けるちゅうぎんフィナンシャルグループをどうぞよろしくお願いいたします。